

# 樂山大仏

高さ三百六十尺、頭周り十丈、目の幅二丈、両耳のみ木造

[樂山大仏 - Bing images](#)

[樂山大仏 - Google マップ](#)

樂山大仏（弥勒像）は峨眉山地域内の長江の支流、岷江、大渡河、青衣江が合流する地点にある。仏足からわずか数歩のところに怒濤がさかまく。

青衣水が大渡河を併せて西流し、山壁に突き当たり激流となり、当時水害が頻繁に起こった、塩を運ぶ大動脈である岷江の水害を大仏の力で治めてもらおうという願いから、僧の海通が民衆の布施の下に寺院・凌雲寺に隣接する崖に石像を彫り始めた。

天宝2年（743年）、海通は大仏が完成する前に亡くなったが、劍南西川節度使であった韋皋が建設を受け継ぎ貞元19年（803年）に完成した。川の合流地点に工事に出た大量の土砂を投入することにより、川底が浅くなり、海通の意図通りに水害は大幅に減ることとなった。

近代以前に造られたものでは世界最大・最長の仏像であり、石像である。岩山を掘り、90年かけて造られた。高さは71メートル。東大寺の大仏の5倍にも及ぶ。当時、多くの大仏が国家によって造られたのに対して、樂山大仏は民衆の力で作られた。

